

今回は中学生の俳句授業の様子をお知らせします。中学校では、3年生の教科書に俳句を作る単位がありますが、本区では1年生や2年生でも実施しています。

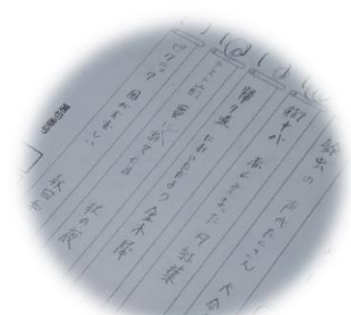
中学2年生の教室です。

「中学生と言えば…？」との講師の声がけに「勉強かな」「部活だ」「恋は？」との発言が続き、小学生とは異なる雰囲気、俳句授業がスタートしました。真夏とは戸外の様子が違って来たことが話題となり、中学生たちは

<日が短くなる→夜が長くなる＝夜長かな>と連想し、「秋の夜長に何をしているかな」と考えていきました。前期末の定期考査があったということを踏まえ、共通の季語を「秋の夜」としました。そこから思いついた季語でも作ります。

「テスト前に何をしていた?」「テスト中は?」「終わったら?」「勉強しているパターン、していないパターンは」等々、講師は、中学生の思考を促す声かけをしています。

机上の作句用紙に思いついた俳句を綴っていく静かな時間が流れました。



『まだ寝るな明日試験だ秋の夜』

『テスト前悟り開いて月を見る』

『テスト勉強やればよかった秋暑し』

『テスト中答え教えて秋の空』などの句がありました。

次に、1年に一度今の時期に使える季語である「台風」に

挑戦です。「台風は四音。同じ意味で三音の『野分』は使

いやすい。野分来る・野分かな・野分あと・野分去る」を紹介しました。「『大変』と言わず、その状況を書こう」という講師の言葉に、国語科の先生が、

『菓子買って準備万端野分待つ』と詠み、中学生が「先生らしい」と納得しました。

次は中学生の作品です。

『突然にビニル傘飛ぶ野分かな』

『前日に予定変更野分来る』

『テスト終えみんなの表情野分あと』

最後に点盛り方式の「句会」を開きました。各自の一人一台端末から投票しました。教師用の一人一台端末で速やかに集計がなされ、結果を共有し、鑑賞の時間を楽しみました。

